

『東松山市地域公共交通計画』策定に向けた 市民・利用者アンケート調査結果について

－ 目 次 －

1. 調査の概要について	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査方法	1
(4) 回収結果	1
(5) 表記に関する留意点	1
2. 主な調査結果について	2
(1) 個人属性	2
(2) 東松山市における移動のあり方について	6
(3) 外出について	8
(4) 現在の公共交通の利用状況及び満足度等について	10
(5) 公共交通サービスのための財政負担について	21
(6) 公共交通や移動に関する意見について	21
3. 課題の抽出	22

令和5年2月

東松山市

1. 調査の概要について

(1) 調査目的

令和5年度における『東松山市地域公共交通計画』の策定にあたり、市民の公共交通に対する現状の認識や将来の公共交通の確保・維持に向けた意向を広く把握し、施策などの検討の基礎資料とするとともに、市民の意向を計画に反映させるため、アンケートを行いました。

(2) 調査対象

① 市民アンケート調査

市内にお住まいの満18歳以上の方から、住民基本台帳から無作為に抽出した2,000名を対象に、市民アンケート調査を実施しました。

② 利用者アンケート調査

東松山駅、高坂駅、森林公園駅において、公共交通機関(鉄道・バス・タクシー等)を利用(調査実施日)された市内にお住いの満18歳以上の1,000名を対象に、利用者アンケート調査を実施しました。

(3) 調査方法

以下の内容で、調査を実施しました。

	市民アンケート	利用者アンケート
配布方法	住民基本台帳からの無作為抽出による郵送配布・郵送回収	利用者への手渡しによる配布 (東武鉄道東武東上線 高坂駅、東松山駅、森林公園駅)
調査時期	令和4年10月3日(月) ～10月17日(月)	令和4年10月13日 7時～19時の12時間
配布数	2,000部	1,000部

(4) 回収結果

回収結果は、以下のとおりです。

	市民アンケート	利用者アンケート	市民+利用者
回収数	763票	202票	965票
回収率	38.2%	20.2%	32.2%

(5) 表記に関する留意点

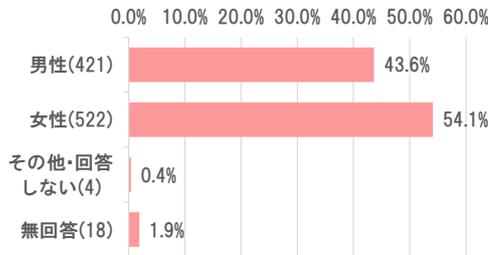
・本報告書では、比率を全て百分率(%)で表し、小数点第2位以下を四捨五入して表示しています。そのため、比率の合計が100.0%とならない場合があります。

2. 主な調査結果について

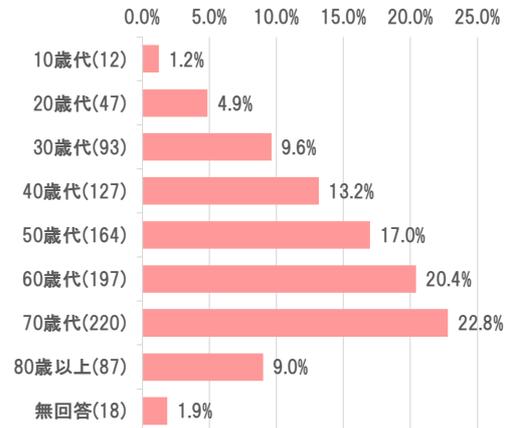
(1) 個人属性

性別は、「男性(43.6%)・女性(54.1%)」がそれぞれ約半数となっていますが、やや女性の回答が多くなっています。年代は、「70歳代(22.8%)」が最も多く、次いで「60歳代(20.4%)」、「50歳代(17.0%)」と続いています。

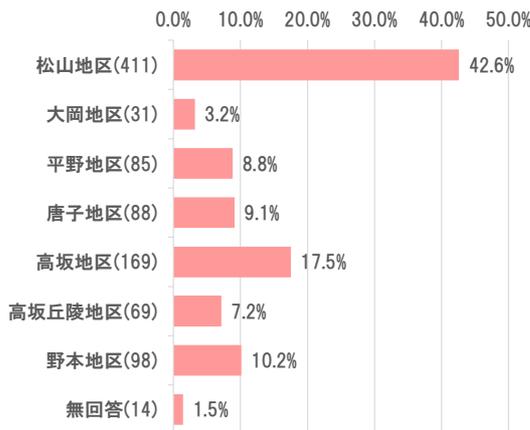
①性別(N=965)



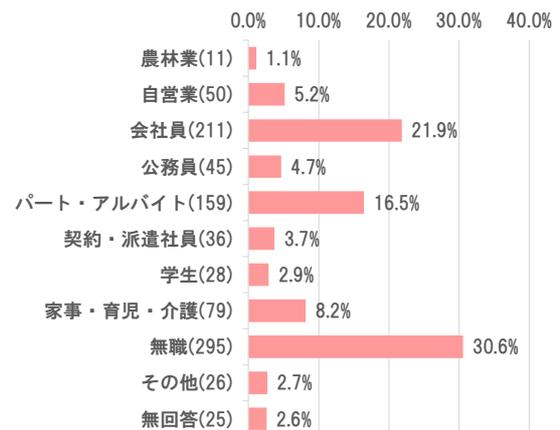
②年代(N=965)



③居住地(N=965)



④職業(N=965)

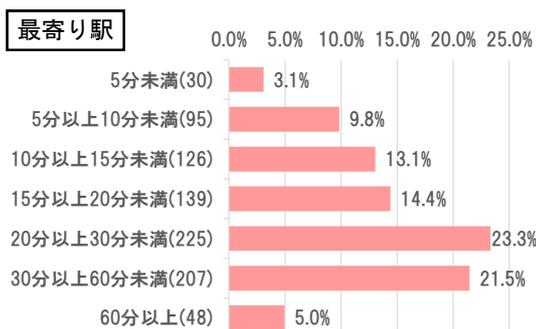


⑤最寄り駅・最寄りバス停

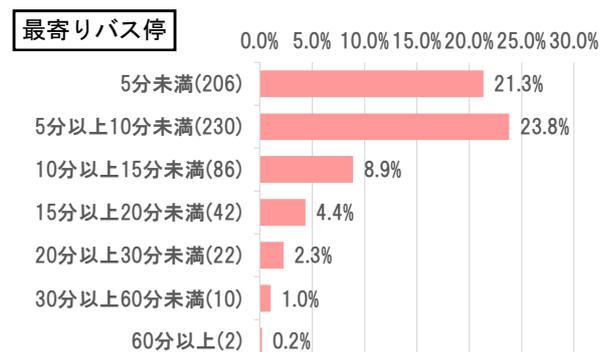
最寄り駅までの徒歩の所要時間は、「20分以上30分未満(23.3%)」、「30分以上60分未満(21.5%)」となっています。全体の約6割以上の方が、最寄り駅から30分未満にお住まいと言えます。

最寄りバス停までの徒歩の所要時間は、「5分以上10分未満(23.8%)」、「5分未満(21.3%)」となっています。全体の約4割以上の方が、最寄りバス停から10分未満にお住まいと言えます。

○最寄り駅までの所要時間 (N=870)



○最寄りバス停までの所要時間 (N=598)

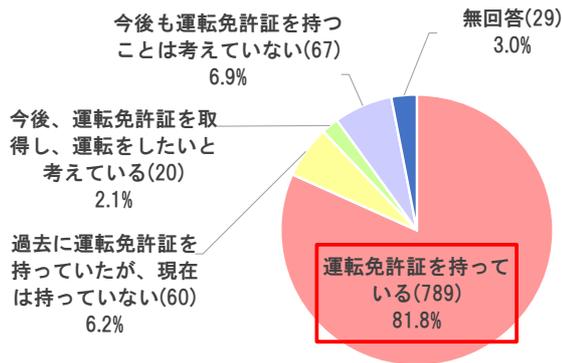


⑥運転免許証の保有状況及び運転状況について

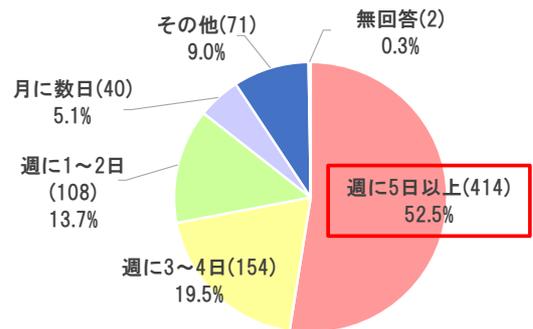
運転免許証の保有状況を見ると、「運転免許証を持っている(81.8%)」が最も多く全体の8割を占めています。その他では、「今後も運転免許証を持つことは考えていない(6.9%)」、「過去に運転免許証を持っていたが、現在は持っていない(6.2%)」となっています。

また、運転免許証を持っている(789名)方の運転状況を見ると、「週に5日以上(52.5%)」が全体の半数以上を占めており、次いで「週に3～4日(19.5%)」が全体の2割以上と、週の半分以上を運転されている方は7割以上となっています。

⑥-1 運転免許証の保有状況 (N=965)



⑥-2 運転状況 (N=789)



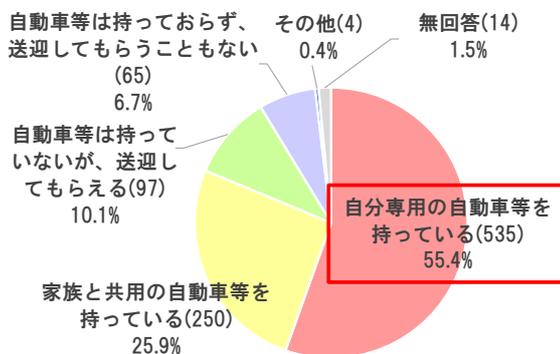
⑦世帯における自動車等(四輪、二輪、原付)の保有状況について

世帯における自動車等の保有状況を見ると、「自分専用の自動車等を持っている(55.4%)」が全体の半数以上を占めており、「家族と共用の自動車等を持っている(25.9%)」と合わせると、全体の8割以上の方が、世帯において使用可能な自動車等を保有しています。

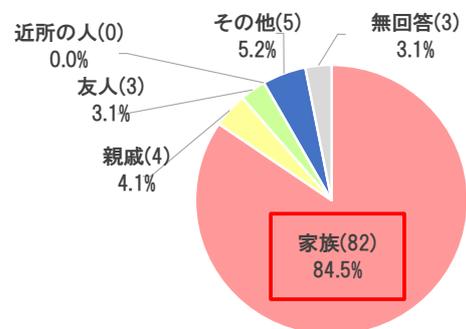
また、自動車等は持っていないが、送迎してもらえる(97名)方がどなたに送迎されているかをみると、「家族(84.5%)」が8割以上となっています。

なお、後出の「日頃の移動で困っていること」の設問においても「家族の送迎」の回答を確認できました。

⑦-1 保有状況 (N=965)



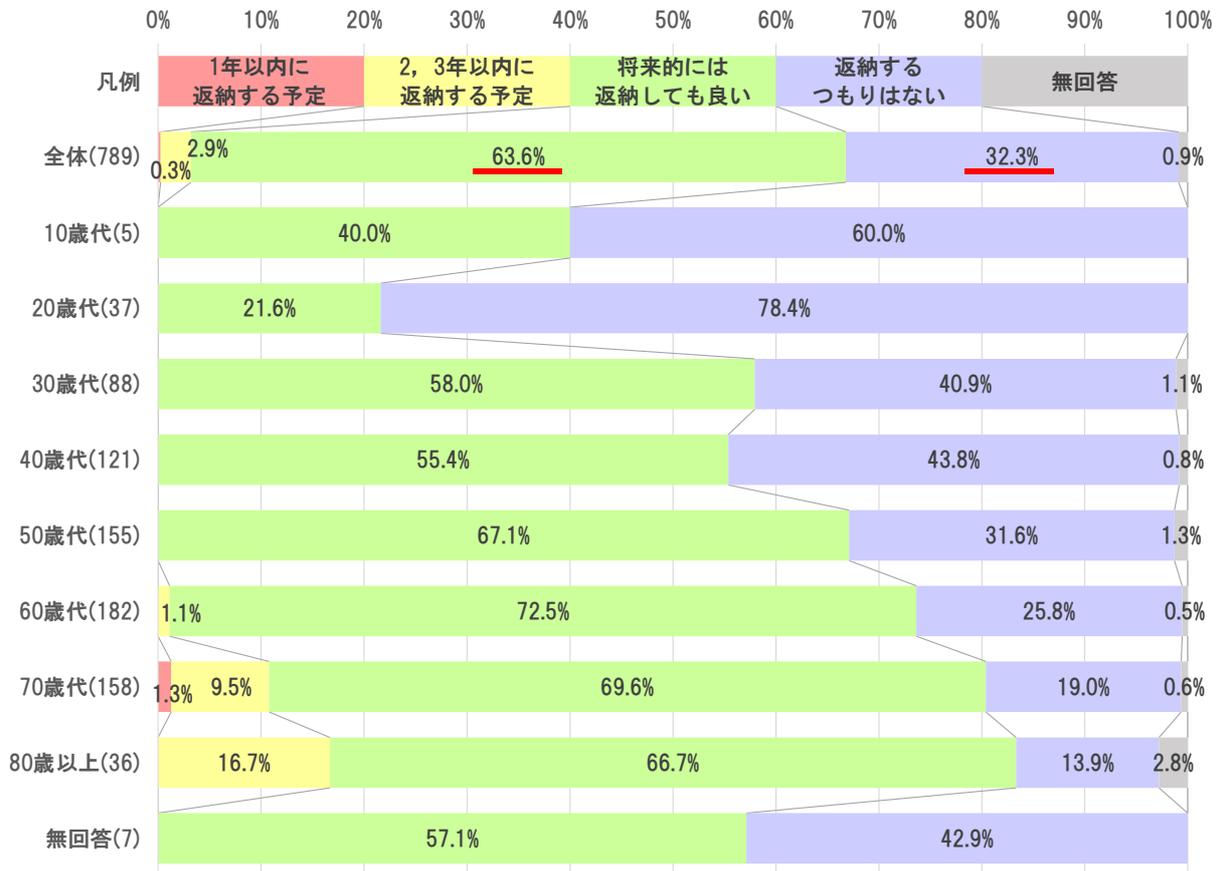
⑦-2 送迎者 (N=97)



⑧【運転免許証をお持ちの方】運転免許証の返納意向について(N=789)

運転免許証をお持ちの方(789名)の返納意向についての回答をみると、「将来的には返納しても良い(63.6%)」が全体の6割以上となっています。一方で、「返納するつもりはない(32.3%)」も全体の3割以上となっています。

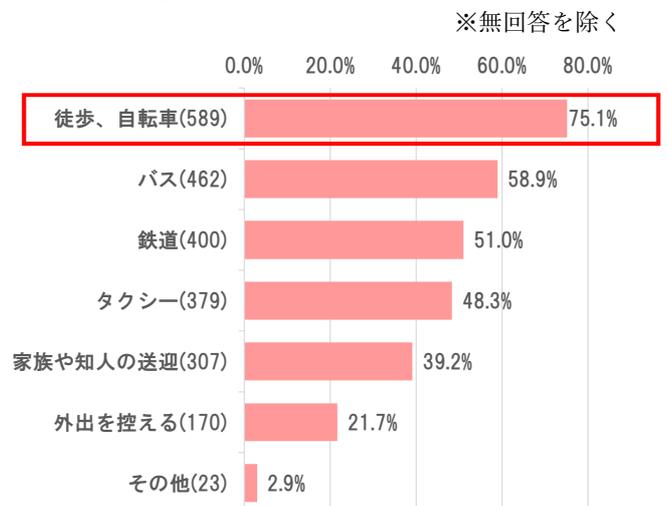
年代別に返納意向をみると、年齢が上がるほどに「将来的には返納しても良い」の割合が増えています。



⑨【運転免許証をお持ちの方】将来、運転ができなくなった場合に、現在は自家用車で移動している場所への移動手段(N=784・複数回答可)

運転免許証をお持ちの方で、将来、運転ができなくなった場合に、現在は自家用車で移動している場所への代替となる移動手段としては、全体の7割以上の方が「徒歩、自転車(75.1%)」と回答しています。

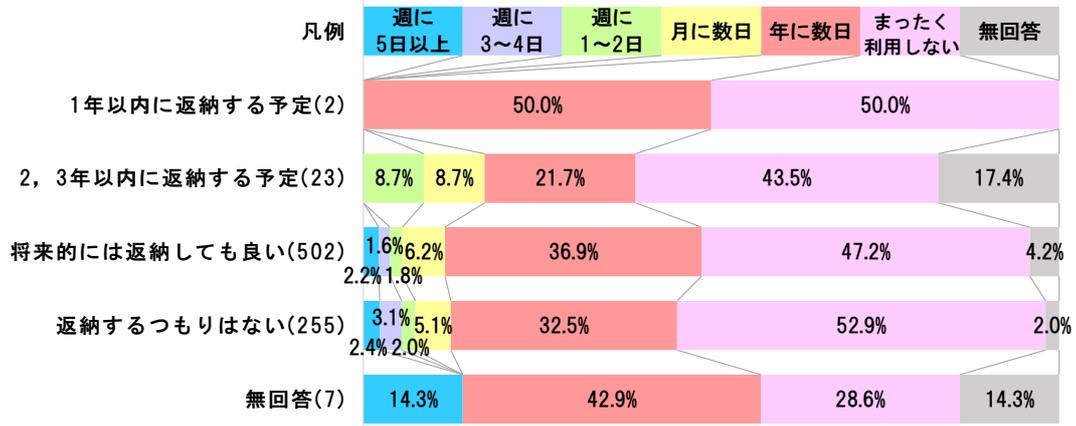
次いで、「バス(58.9%)」、「鉄道(51.0%)」、「タクシー(48.8%)」の順となっています。



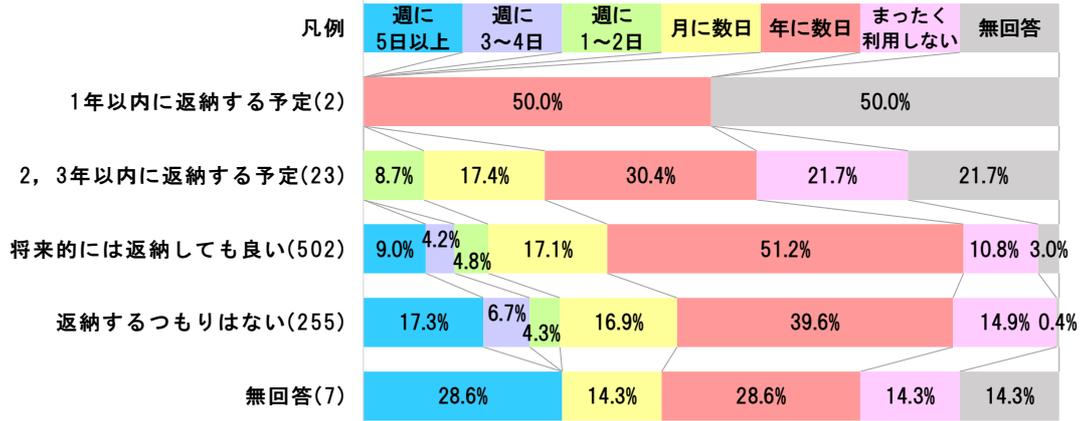
【参考】免許返納意向×各公共交通の利用回数(N=789)

免許返納意向別の公共交通の利用状況は、以下の通りです。返納意向のある方でも公共交通の利用が少なく、特に路線バスに関しては全く利用しないが半数を占めていることから、乗車方法等の情報提供を促進する必要があります。

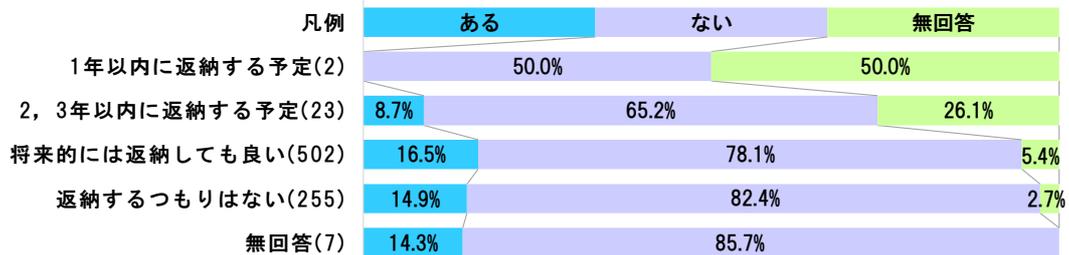
①路線バスの利用回数



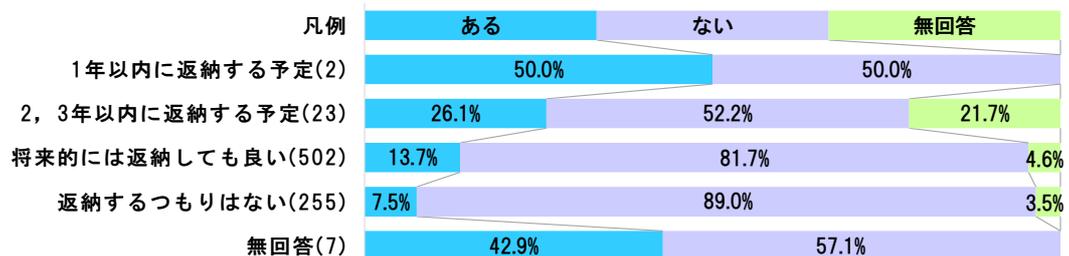
②鉄道の利用回数



③市内循環バスの利用回数



④デマンドタクシーの利用回数

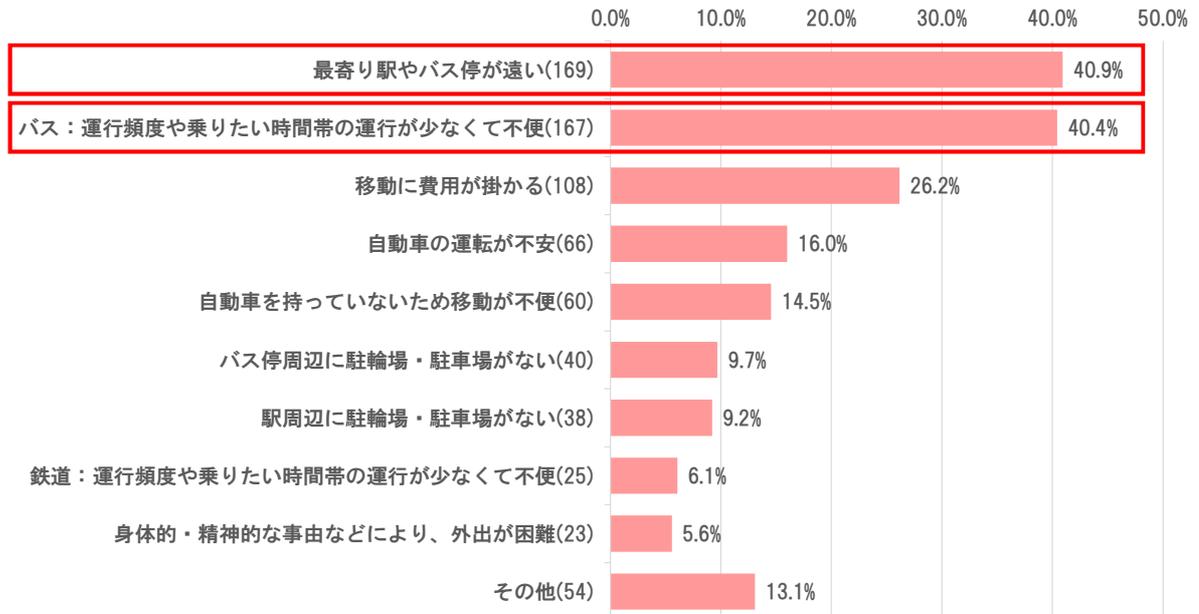


(2)東松山市における移動のあり方について

①日頃の移動で困っていること(N=932・複数回答可)

本設問に回答いただいた932名の回答をみると、「特にない(55.7%)」が半数以上を占めています。一方で、いずれかを選択された方(413名)では、「最寄り駅やバス停が遠い(40.9%)」と「バス:運行頻度や乗りたい時間帯の運行が少なくて不便(40.4%)」が、それぞれ全体の4割の方が不便であると回答しています。次いで、「移動に費用が掛かる(26.2%)」となっています。

※「特にない(519名)」を除いた回答



②公共交通で移動したい場所について

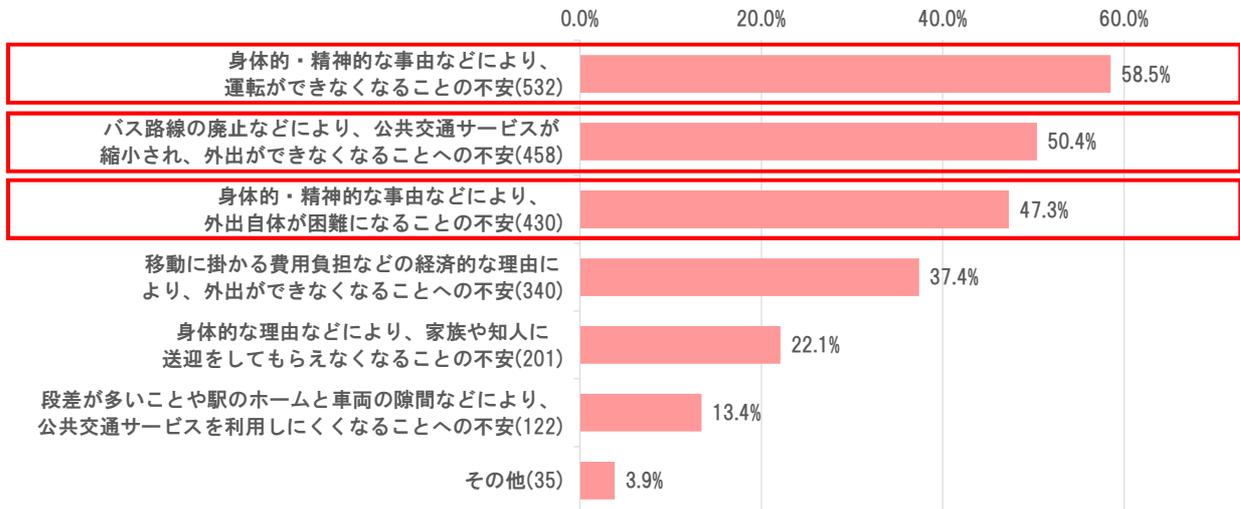
路線バス・市内循環バスで移動したい場所(施設)は、「病院・診療所などの医療施設」が最も多く、次いで、「デパート・ショッピングモールなどの大型商業施設」、「市役所・市民活動センターなどの行政施設」となっています。

曜日・時間帯は移動したい場所(各施設)の開いている曜日・時間帯に依っていますが、時間帯を見ると、昼間時間帯の利用希望が多く伺えます。

移動したい場所	回答数	割合	施設名称(主なもの)
1 市役所・市民活動センターなどの行政施設	143	31.1%	東松山市役所、市民活動センター
2 病院・診療所などの医療施設	258	56.1%	東松山市民病院、シャローム病院、成恵会病院
3 高齢者等を支える福祉関連施設	14	3.0%	東松山ホーム
4 幼稚園・保育園などの子育て関連施設	3	0.7%	幼稚園
5 スーパー・コンビニなどの日用品や食料品の店舗	111	24.1%	ヤオコー、ヘルク、西友、ピバモール
6 デパート・ショッピングモールなどの大型商業施設	152	33.0%	ビオニウオーク、丸広
7 飲食店	31	6.7%	居酒屋
8 文化センター・図書館などの教育・文化施設	57	12.4%	東松山市立図書館、高坂図書館、東松山文化センター
9 体育館・運動場などのスポーツ施設	22	4.8%	市民健康増進センター
10 公園・レクリエーション施設	27	5.9%	農林公園
11 銀行・郵便局などの金融施設	109	23.7%	埼玉りそな銀行、三菱UFJ銀行、郵便局
12 その他	84	18.3%	東松山駅、高坂駅

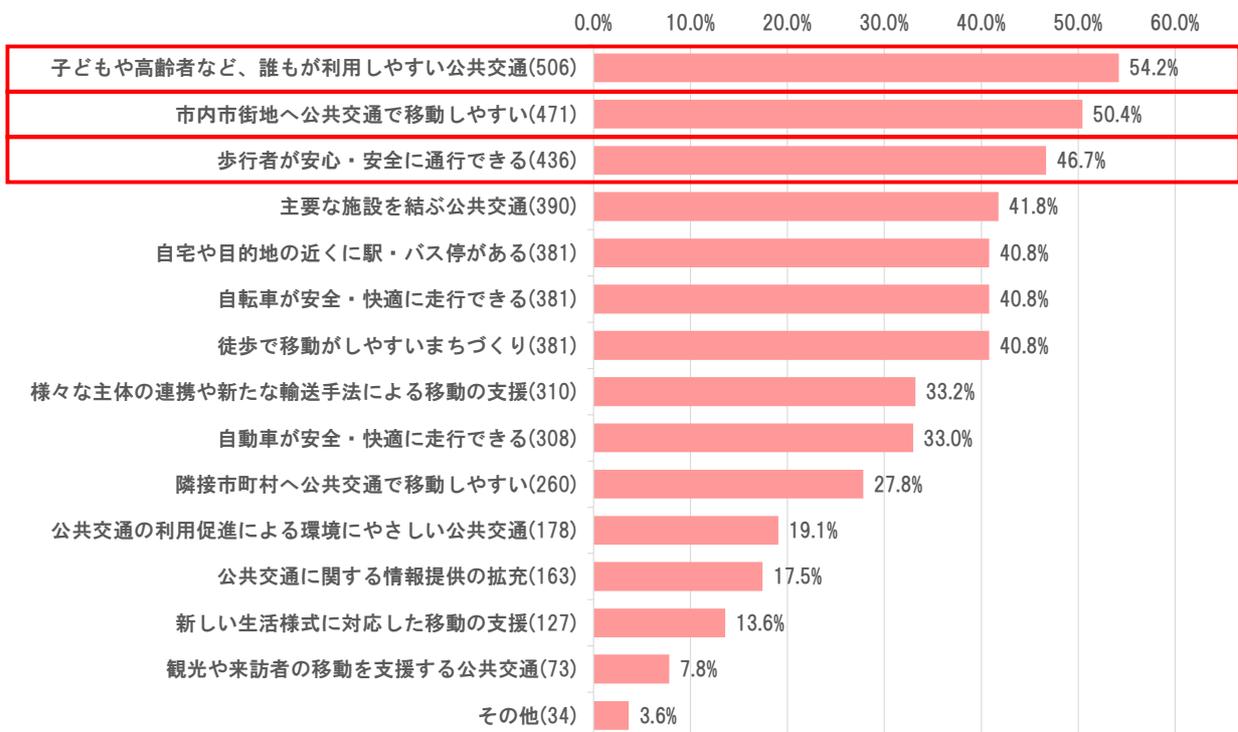
③将来の移動に対する不安について(N=909・複数回答可)

本設問に回答いただいた909名の回答をみると、「身体的・精神的な事由などにより、運転ができなくなることの不安(58.5%)」が約6割を占めています。次いで、「バス路線の廃止などにより、公共交通サービスが縮小され、外出ができなくなることへの不安(50.4%)」、「身体的・精神的な事由などにより、外出自体が困難になることの不安(47.3%)」がそれぞれ約5割となっています。



④本市が目指すべき交通サービスのあり方について(N=934・複数回答可)

本設問に回答いただいた934名の回答をみると、「子どもや高齢者など、誰もが利用しやすい公共交通(54.2%)」、「市内市街地へ公共交通で移動しやすい(50.4%)」をそれぞれ約半数の方が選択し、次いで、「歩行者が安心・安全に通行できる(46.7%)」となっています。



- 回答者の多くが運転免許を保有し、日常的に自動車依存度が高いと考えられ、日常の移動で困っていることで「特にない」が約6割(55.7%)と最も多くなったと推測できます。
- 公共交通(路線バス・市内循環バス)で移動したい場所は、「医療施設」が最も高く、移動したい曜日は「平日」の回答が多く、通院の利用需要が高いと言えます。
- 将来の移動に対する不安は「身体的・精神的な事由などにより、運転ができなくなること(58.5%)」が約6割を占めていることから、自動車依存の高さがうかがえます。

(3)外出について

1)【市民アンケート】普段の外出について

全ての移動目的(通勤・通学、買い物、通院、その他)において、主な移動手段は、自家用車が7割(「通勤・通学」で71.7%、「買い物」で79.3%、「通院」で75.1%、「その他」で71.8%)を超えており、自動車依存の高さがうかがえます。他方で、公共交通の利用頻度は低いと言えます。

①移動日

	①通勤・通学		②買い物 (日用品、食料品等)		③通院		④その他 (飲食、趣味、娯楽等)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 平日	398	99.5%	456	68.3%	473	87.6%	270	54.0%
2 土日祝	48	12.0%	275	41.2%	77	14.3%	268	53.6%
	400	-	668	-	540	-	500	-

②移動時間帯

	①通勤・通学		②買い物 (日用品、食料品等)		③通院		④その他 (飲食、趣味、娯楽等)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 午前中	374	94.2%	341	51.8%	429	79.4%	219	44.5%
2 12時~16時	34	8.6%	230	35.0%	87	16.1%	204	41.5%
3 16時~20時	44	11.1%	134	20.4%	51	9.4%	120	24.4%
4 20時以降	16	4.0%	8	1.2%	0	0.0%	22	4.5%
	397	-	658	-	540	-	492	-

③目的地

①通勤・通学	②買い物 (日用品、食料品等)		③通院		④その他 (飲食、趣味、娯楽等)		
東京都内	8	ピオニー	61	東松山市民病院	68	飲食店	27
東松山市内	8	ハルク	41	シャローム病院	13	ピオニウォーク	20
吉見町	7	ヤオコー	31	成恵会病院	10	スポーツジム	10
坂戸市	7	ピバモール	21	新井クリニック	10	体育館	8
市役所	6	丸広	13	笠原クリニック	7	図書館	7

④主な移動手段(2つまで)

	①通勤・通学		②買い物 (日用品、食料品等)		③通院		④その他 (飲食、趣味、娯楽等)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 徒歩	67	16.0%	135	19.5%	79	14.1%	80	15.4%
2 自転車	54	12.9%	99	14.3%	53	9.5%	43	8.3%
3 バイク	7	1.7%	7	1.0%	5	0.9%	4	0.8%
4 自家用車	301	71.7%	549	79.3%	420	75.1%	374	71.8%
5 鉄道	59	14.0%	3	0.4%	21	3.8%	47	9.0%
6 路線バス	13	3.1%	5	0.7%	21	3.8%	27	5.2%
7 市内循環バス	1	0.2%	4	0.6%	10	1.8%	5	1.0%
8 送迎バス	3	0.7%	1	0.1%	4	0.7%	3	0.6%
9 ハイヤー・タクシー	2	0.5%	2	0.3%	6	1.1%	6	1.2%
10 デマンドタクシー	3	0.7%	11	1.6%	20	3.6%	2	0.4%
11 家族や友人の送迎	21	5.0%	40	5.8%	45	8.1%	51	9.8%
12 その他	2	0.5%	1	0.1%	2	0.4%	3	0.6%
	420	-	692	-	559	-	521	-

⑤移動に掛かる時間

	①通勤・通学		②買い物 (日用品、食料品等)		③通院		④その他 (飲食、趣味、娯楽等)	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 10分以内	58	20.6%	136	35.9%	89	28.3%	44	14.0%
2 20分以内	76	27.0%	129	34.0%	99	31.4%	73	23.2%
3 30分以内	46	16.3%	79	20.8%	62	19.7%	77	24.5%
4 1時間以内	58	20.6%	21	5.5%	41	13.0%	64	20.4%
5 2時間以内	41	14.5%	14	3.7%	20	6.3%	42	13.4%
6 それ以上	3	1.1%	0	0.0%	4	1.3%	14	4.5%
	282	100%	379	100%	315	100%	314	100%

2)【利用者アンケート】本日の外出について

1番目～5番目に移動した場所のうち「移動目的」と「1つ目の移動交通手段」の両方に回答されているものを有効回答データとして集計しました(回答者202名のうち176名・トリップ数は414トリップ)

※トリップ : 人がある目的を持って、ある地点からある地点へと移動する単位。1回の移動で複数の交通手段を利用した場合も「1トリップ」として集計。

※代表交通手段: 1トリップの中で複数の交通手段を利用した場合の主な交通手段

移動目的は「帰宅」と「出勤」が多く、いずれの移動手段も「鉄道」が半数以上を占めています。

一方、「買い物(56名)」の際の移動手段は、「自動車」が最も多い結果となっており、他の移動目的とは異なる傾向がうかがえました。

①本日の外出の移動目的

	トリップ数	構成率
1 出勤	90	21.7%
2 登校	11	2.7%
3 帰社	7	1.7%
4 帰宅	109	26.3%
5 業務	14	3.4%
6 通院	20	4.8%
7 買い物	56	13.5%
8 飲食	18	4.3%
9 私用(通院・買い物・飲食除く)	51	12.3%
10 送迎	9	2.2%
11 その他	29	7.0%
合計	414	100%

②本日の外出の代表交通手段

	トリップ数	構成率
1 鉄道	219	52.9%
2 バス	44	10.6%
3 自動車	69	16.7%
4 二輪車	18	4.3%
5 徒歩	64	15.5%
合計	414	100%

③本日の外出の各移動目的における代表交通手段 (回答が多いものを抜粋)

1 出勤	トリップ数	構成率
1 鉄道	64	71.1%
2 バス	13	14.4%
3 自動車	6	6.7%
4 二輪車	5	5.6%
5 徒歩	2	2.2%
合計	90	100%

4 帰宅	トリップ数	構成率
1 鉄道	67	61.5%
2 バス	12	11.0%
3 自動車	13	11.9%
4 二輪車	7	6.4%
5 徒歩	10	9.2%
合計	109	100%

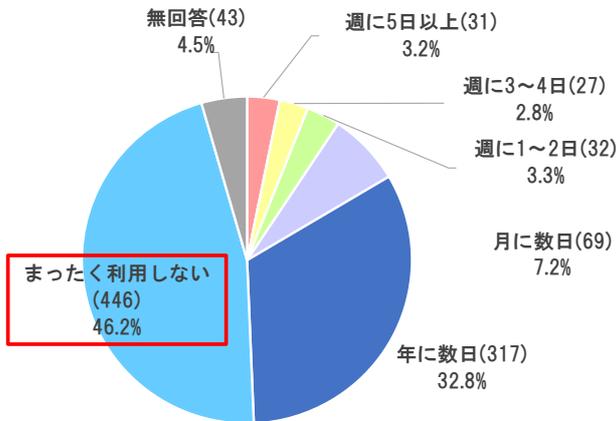
7 買い物	トリップ数	構成率
1 鉄道	9	16.1%
2 バス	5	8.9%
3 自動車	25	44.6%
4 二輪車	0	0.0%
5 徒歩	17	30.4%
合計	56	100%

9 私用(通院・買い物・飲食除く)	トリップ数	構成率
1 鉄道	27	52.9%
2 バス	4	7.8%
3 自動車	3	5.9%
4 二輪車	3	5.9%
5 徒歩	14	27.5%
合計	51	100%

(4)現在の公共交通の利用状況及び満足度等について

1) 路線バスについて

①利用回数 (N=965)



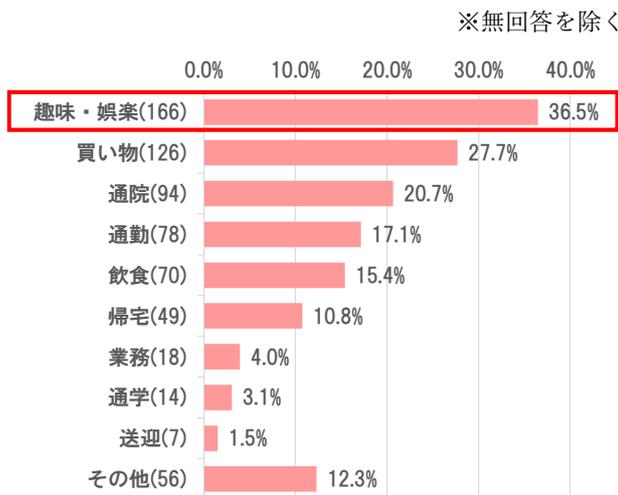
路線バスの利用回数をみると「まったく利用しない(46.2%)」が全体の半数近くを占め、利用される方でも「年に数日(32.8%)」が多くなっています。

また、利用される方の利用目的を見ると3割の方が「趣味・娯楽(36.5%)」を挙げられており、最も多くなっています。なお、利用する理由は「飲酒の予定(26.5%)」、「バス停に近い(25.6%)」、「天候により利用(21.8%)」の順となっています。

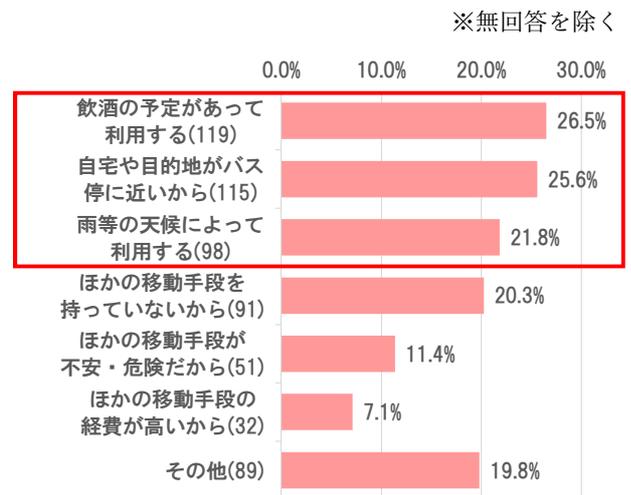
他方で、全く利用しない方の利用しない理由では、「その他の移動手段の方が便利(53.8%)」と半数以上の方が回答しており、その他でも「自家用車があるから」という意見が多く見られました。

②【「6.まったく利用しない」と回答された方以外の方】

◆利用目的 (N=455・複数回答可)

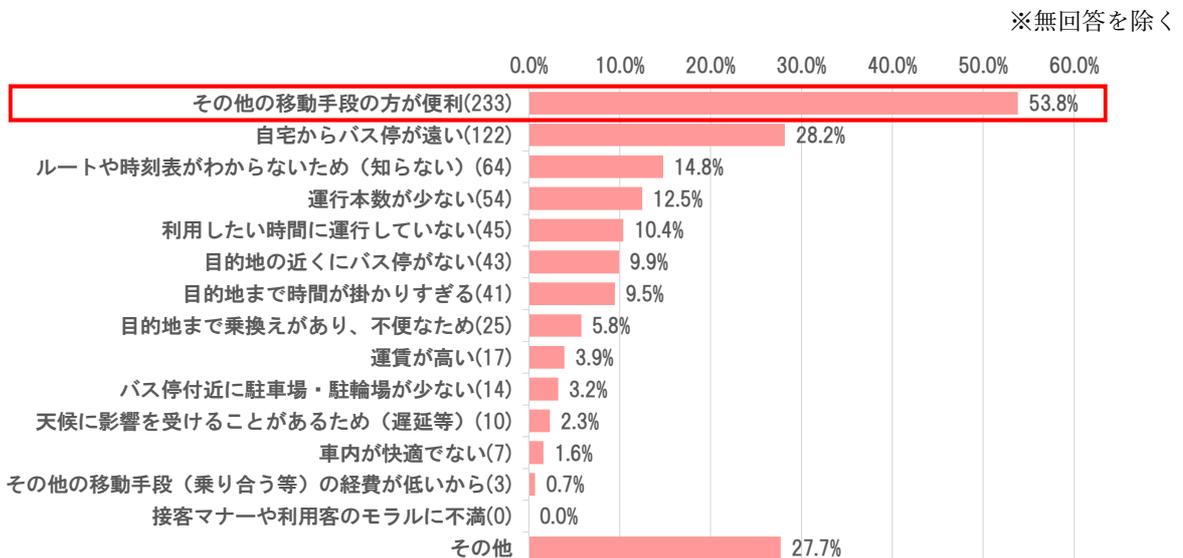


◆利用理由 (N=449・複数回答可)



③【「6.まったく利用しない」と回答された方】

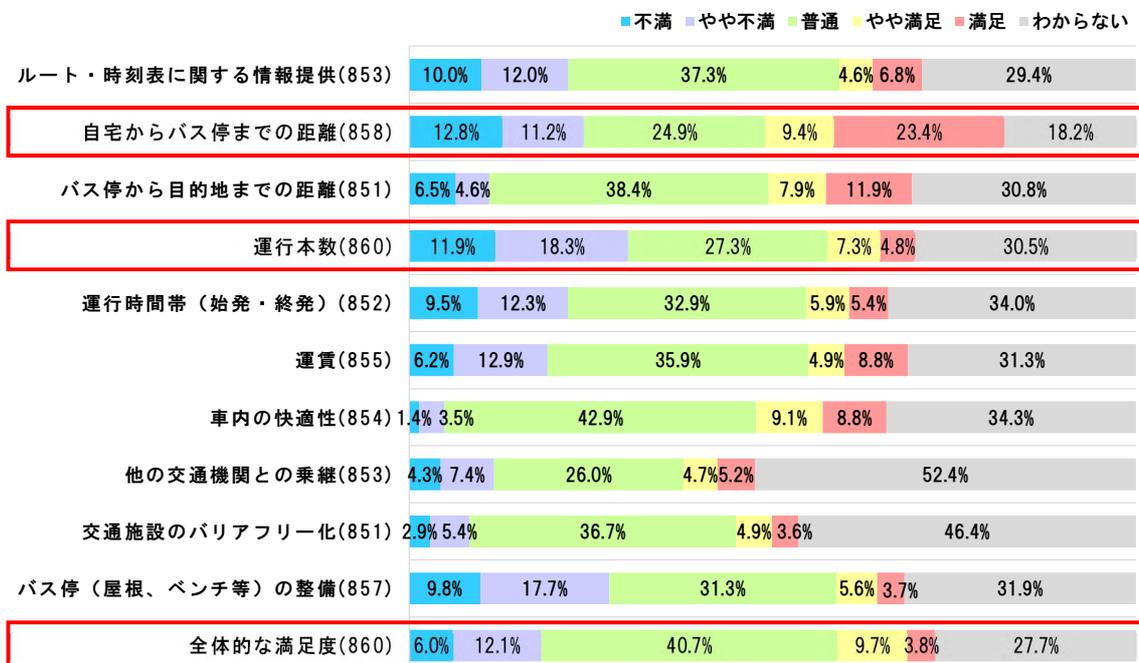
◆利用しない理由 (N=434・複数回答可)



④路線バス：満足度について

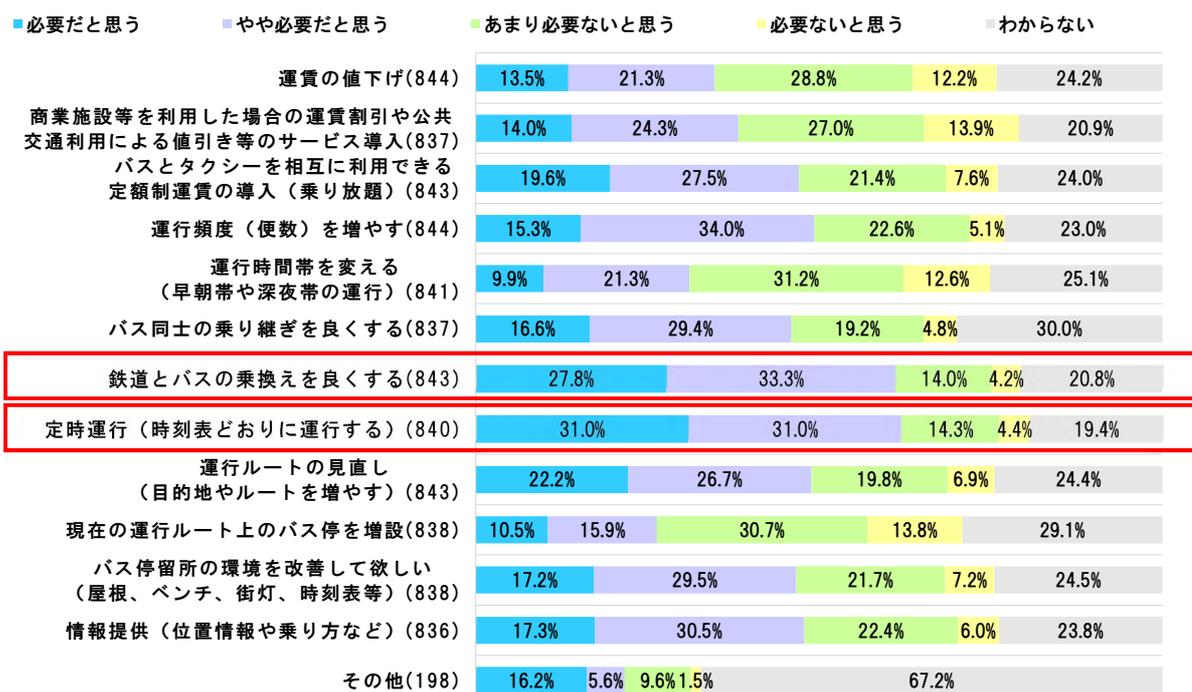
満足度では、全項目において「わからない」の割合が高くなっています。その中でも、「自宅からバス停までの距離(32.8%)」では比較的、満足の割合が高くなっています。他方で、「運行本数」では「不満(11.9%)」+「やや不満(18.3%)」で不満が約3割とやや高くなっています。

全体的な満足度では、「普通(40.7%)」が全体の4割となっています。



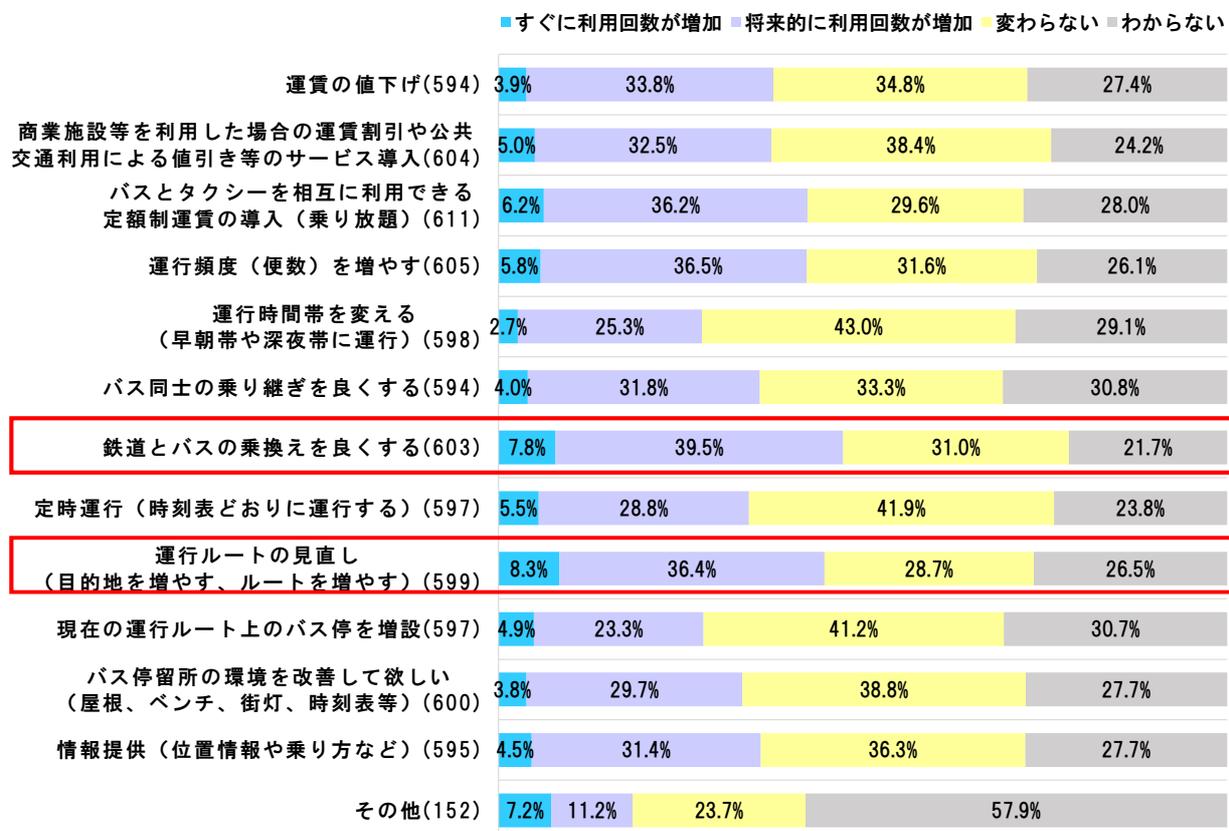
⑤-1 路線バス：改善して欲しい点(利用する条件)について

改善して欲しい点では、「鉄道とバスの乗換えを良くする」、「定時運行(時刻表どおりに運行する)」において、「必要だと思う+やや必要だと思う」がそれぞれ約6割方が必要と回答されています。



⑤-1 路線バス：改善した場合の利用回数の変化について

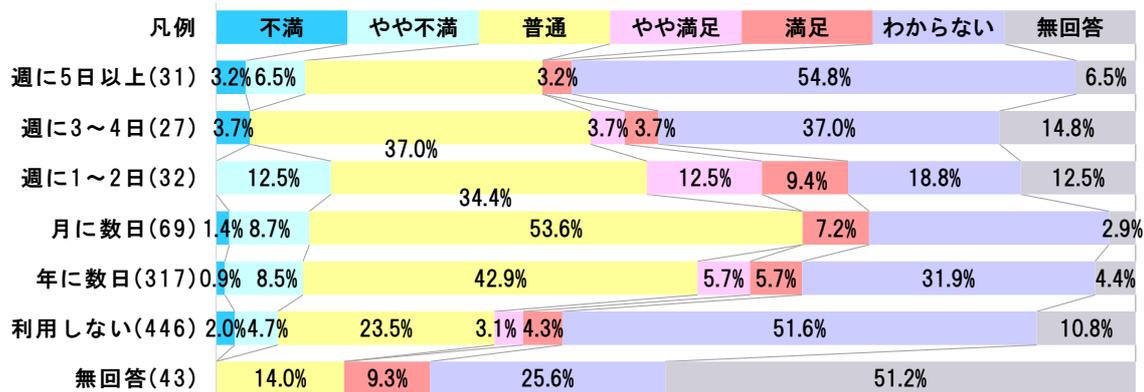
改善した場合に利用回数が顕著に増加するとなった項目は少なく、「すぐに利用回数が増加+将来的に利用回数が増加する」の回答が比較的多い取組みとしては、「鉄道とバスの乗換えを良くする」、「運行ルートの見直し(目的地を増やす、ルートを増やす)」が挙げられました。



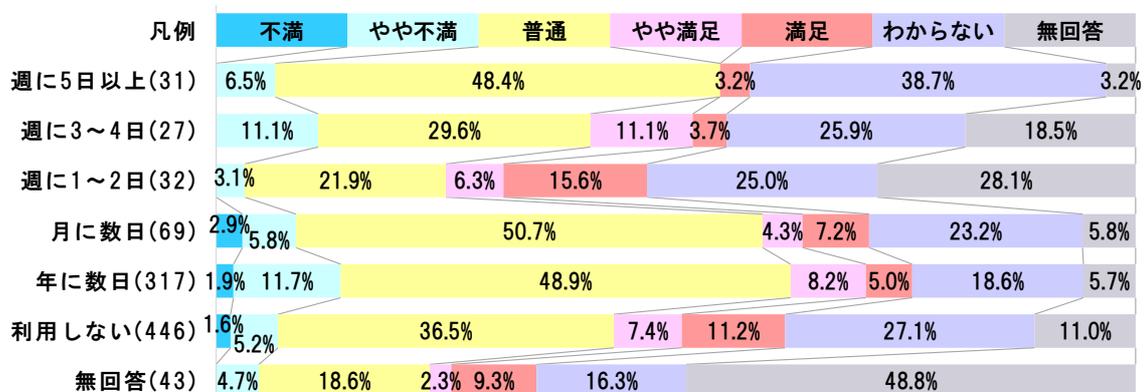
- 利用回数は「まったく利用しない」が半数を占め、また満足度・改善してほしい点でも、各項目において「わからない」が比較的高くなっており、路線バスに対する関心の低さがうかがえます。
- 利用する理由としては、「飲酒の予定が合って利用する」が最も多く日常的な路線バスの利用機会が少ないことが課題となっています。
- 利用しない理由としては、「その他の移動手段の方が便利」が半数以上を占めており、自動車の方が利便性が高いと考える方が多いことがうかがえます。
- 改善してほしい点では、「定時運行」、「鉄道とバスの乗換えを良くする」が上位となっており、特に「他の公共交通との乗換え」については、改善した場合に利用回数が増加するとの回答が半数を占めています。また、「運行ルートの見直し」でも増加するとの回答が半数近くを占めています。
- 上記結果から、路線バスでは、「定時運行」、「鉄道への乗継利便性の向上」、「運行ルートの見直し」といった運行に係る利便性向上へのニーズが高いことが把握できました。

【参考】公共交通(路線バス)の利用回数×満足度(不満や満足が顕著な項目のみ抜粋)

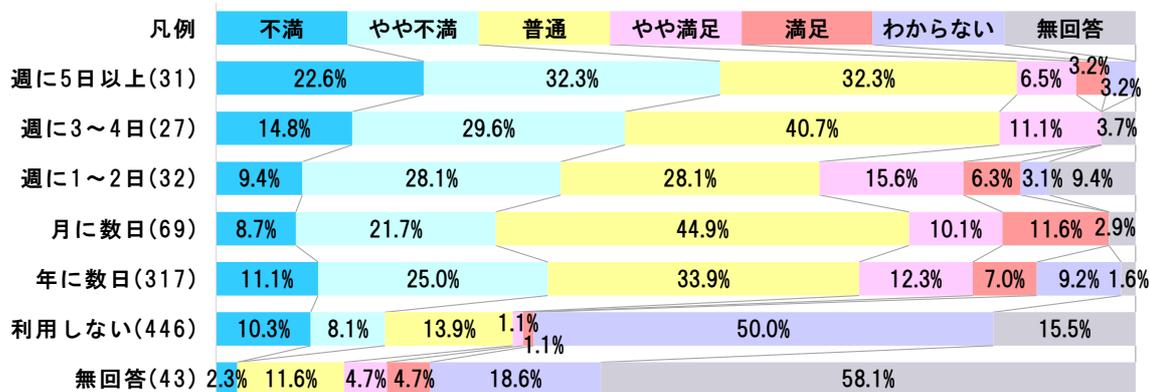
○路線バス：2. 自宅からバス停までの距離



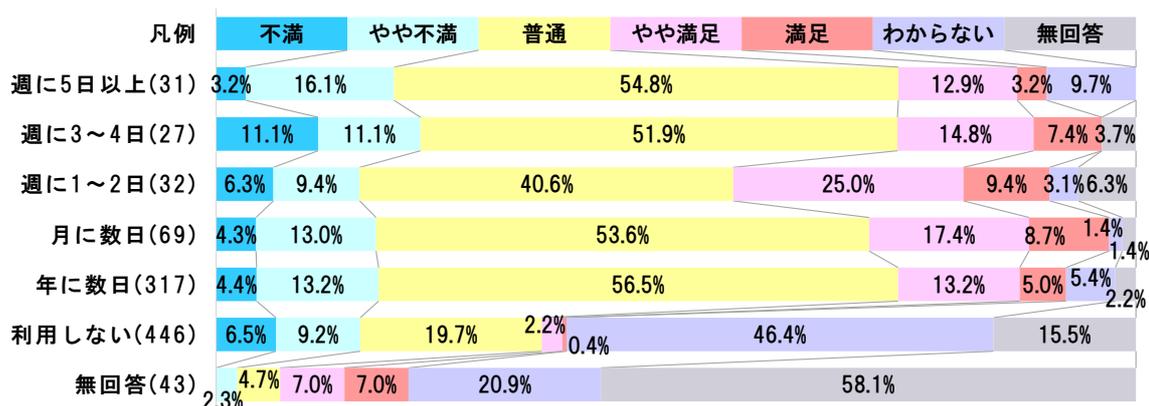
○路線バス：3. バス停から目的地までの距離



○路線バス：4. 運行本数

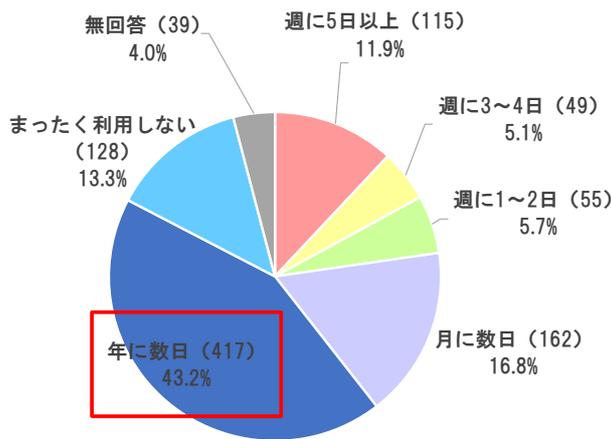


○路線バス：11. 全体的な満足度



2) 鉄道

①利用回数 (N=965)



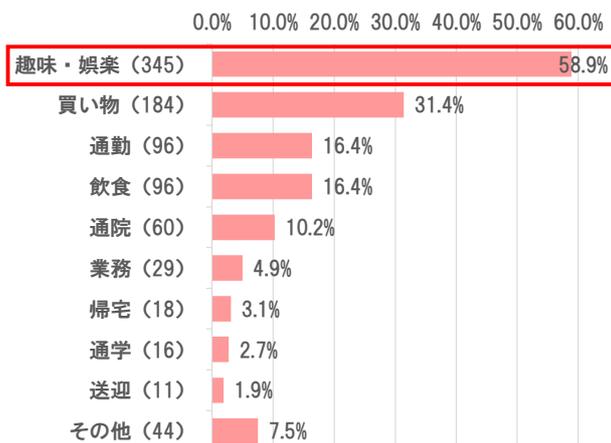
鉄道の利用回数をみると「年に数日(43.2%)」が4割以上を占め、次いで、「月に数日(16.8%)」となっています。また、利用される方の利用目的をみると全体の6割の方で「趣味・娯楽(58.9%)」を、3割以上の方で「買い物(31.4%)」を目的とされています。なお、利用する理由は「自宅や目的地がバス停に近いから(34.5%)」が全体の3割以上となっています。

他方で、全く利用しない方の利用しない理由では、「その他の移動手段の方が便利(51.2%)」と半数以上の方が回答しており、その他でも「自家用車があるから」という意見が多く見られました。

②【「6.まったく利用しない」と回答された方以外の方】

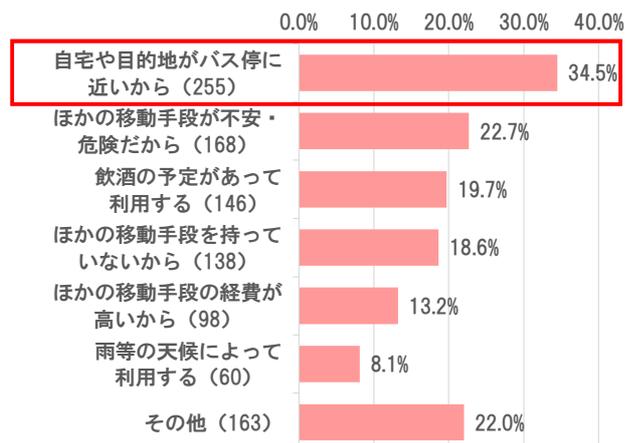
◆利用目的 (N=766・複数回答可)

※無回答を除く



◆利用理由 (N=740・複数回答可)

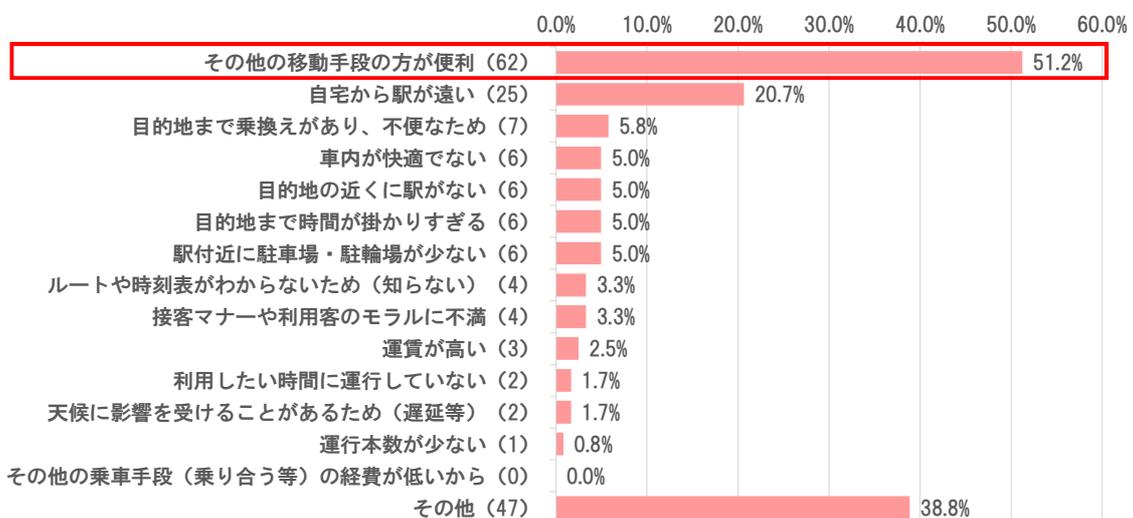
※無回答を除く



③【「6.まったく利用しない」と回答された方】

◆利用しない理由 (N=121・複数回答可)

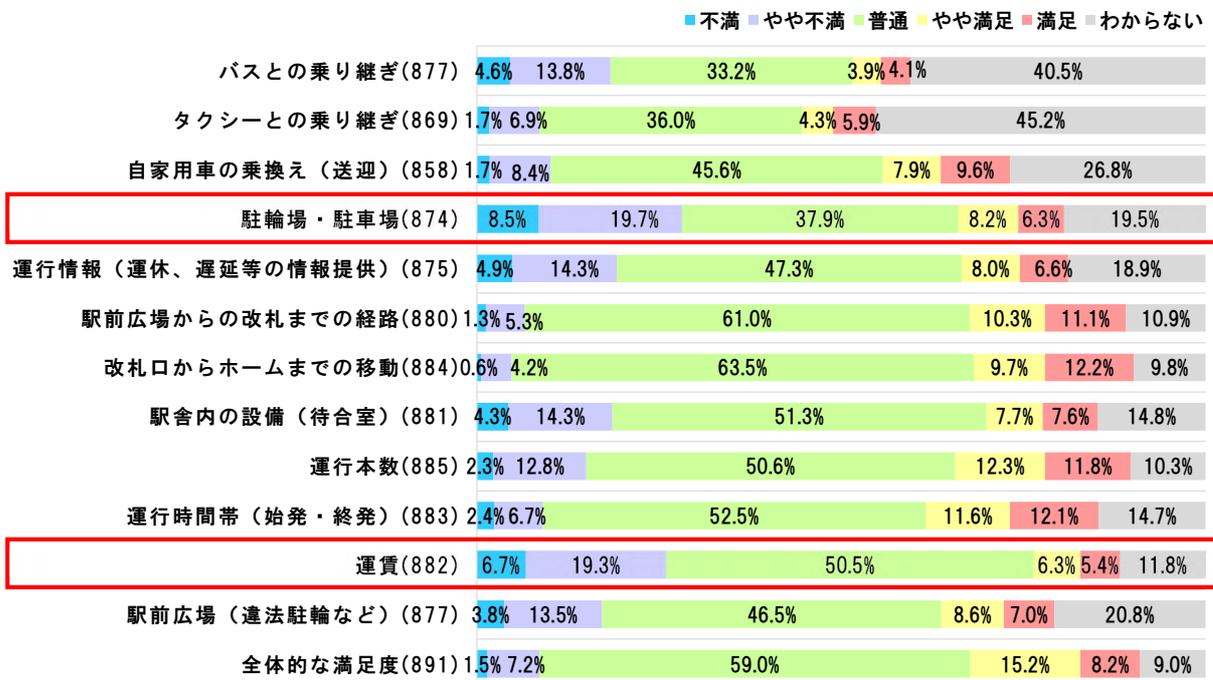
※無回答を除く



④鉄道：満足度について

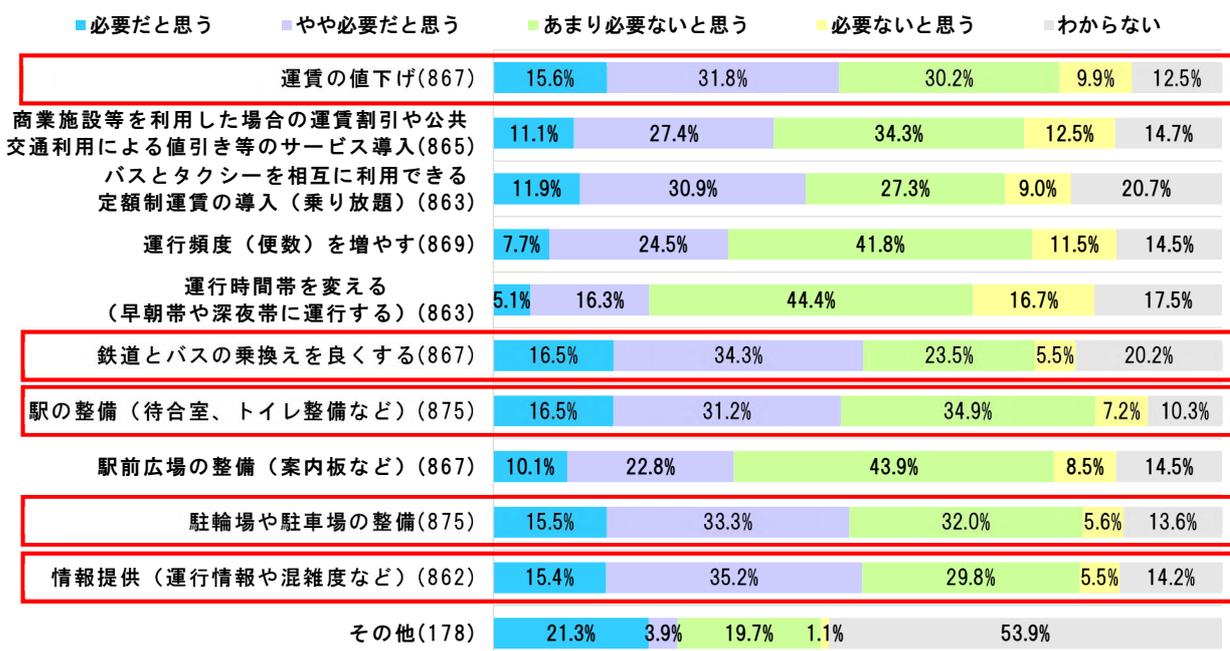
満足度では、全項目において「普通」または「わからない」の割合が高くなっています。その中でも、「駐輪場・駐車場」で「不満(8.5%) + やや不満(19.7%)」、「運賃」で「不満(6.7%) + やや不満(19.3%)」と不満の回答が見られます。

全体的な満足度では、「普通(59.0%)」が全体の6割となっています。



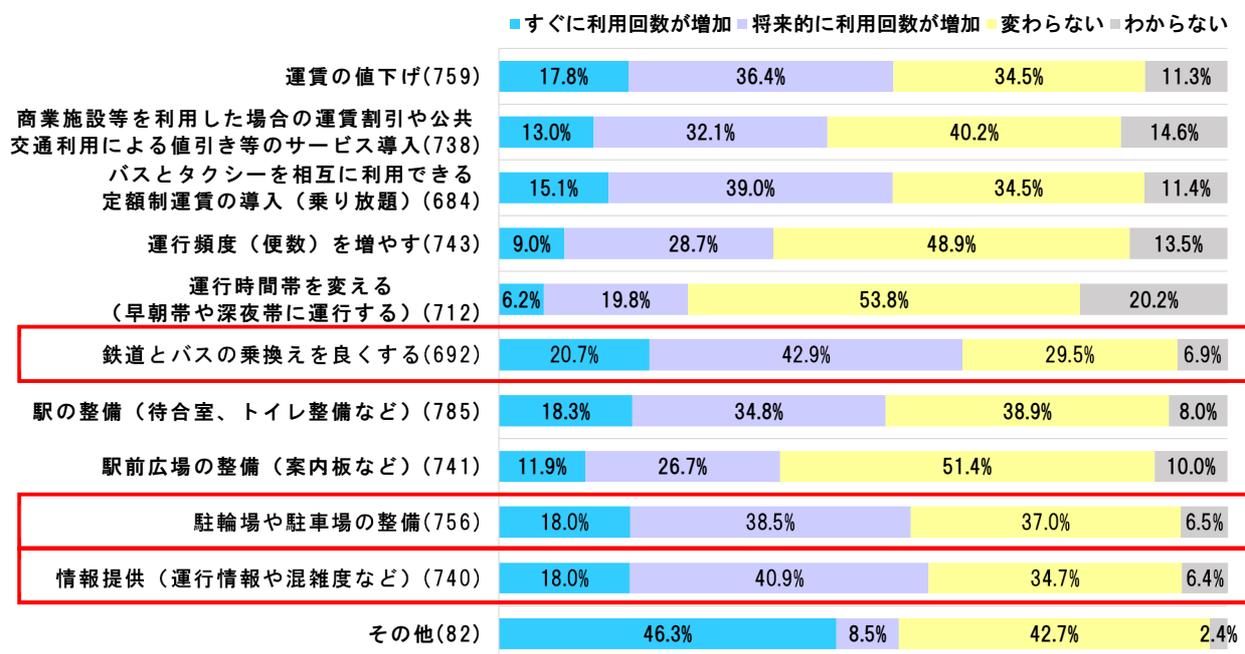
⑤-1 鉄道：改善して欲しい点(利用する条件)について

改善して欲しい点では、「必要だと思う+やや必要だと思う」で半数以上を占めている項目は、「鉄道とバスの乗換えを良くする(50.8%)」、「情報提供(運行情報や混雑度など)(50.6%)」となっています。その他では、「駐輪場や駐車場の整備(48.8%)」、「駅の整備(待合室、トイレ整備など)(47.7%)」、「運賃の値下げ(47.4%)」となっています。



⑤-1 鉄道：改善した場合の利用回数の変化について

改善した場合に利用回数が増加する(すぐに増加+将来的に増加)となった取組みとしては、「鉄道とバスの乗換えを良くする(63.6%)」、「情報提供(運行情報や混雑度など)(58.9%)」、「駐輪場や駐車場の整備(56.5%)」が挙げられました。



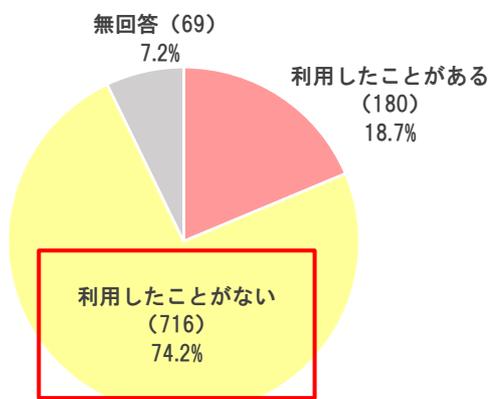
- 利用回数は「年に数日」が半数近くを占め最も多く、鉄道の利用機会が少ないことが課題と言えます。
- 利用しない理由としては、「その他の移動手段の方が便利」が半数以上を占めており、自動車の方が利便性が高いと考える方が多いことがうかがえます。
- 改善してほしい点では、「鉄道とバスの乗換えを良くする」が上位に挙げられており、特に、改善した場合に利用回数が増加するとの回答が6割以上となっている。
- 上記結果から、鉄道では、「路線バスへの乗継利便性の向上」へのニーズが高いことが把握できました。

3) 市内循環バス

市内循環バスの利用回数は「利用したことがない(74.2%)」が全体の7割以上を占めています。

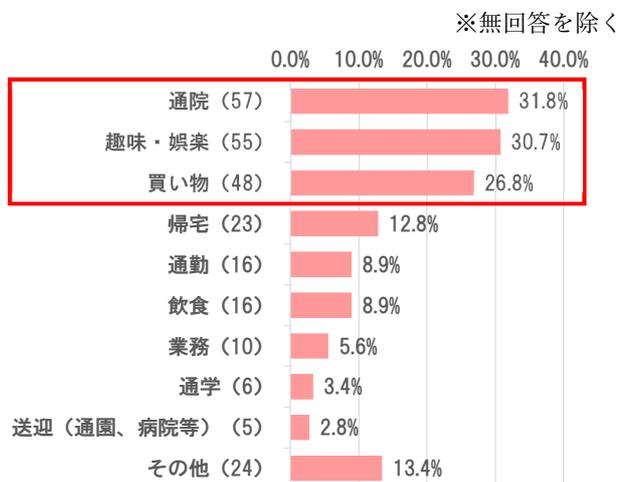
また、利用したことがある方の利用目的は、「通院(31.8%)」、「趣味・娯楽(30.7%)」、「買い物(26.8%)」の順になっています。

①-1 利用回数 (N=965)



①-2 【「1.利用したことがある」と回答された方】

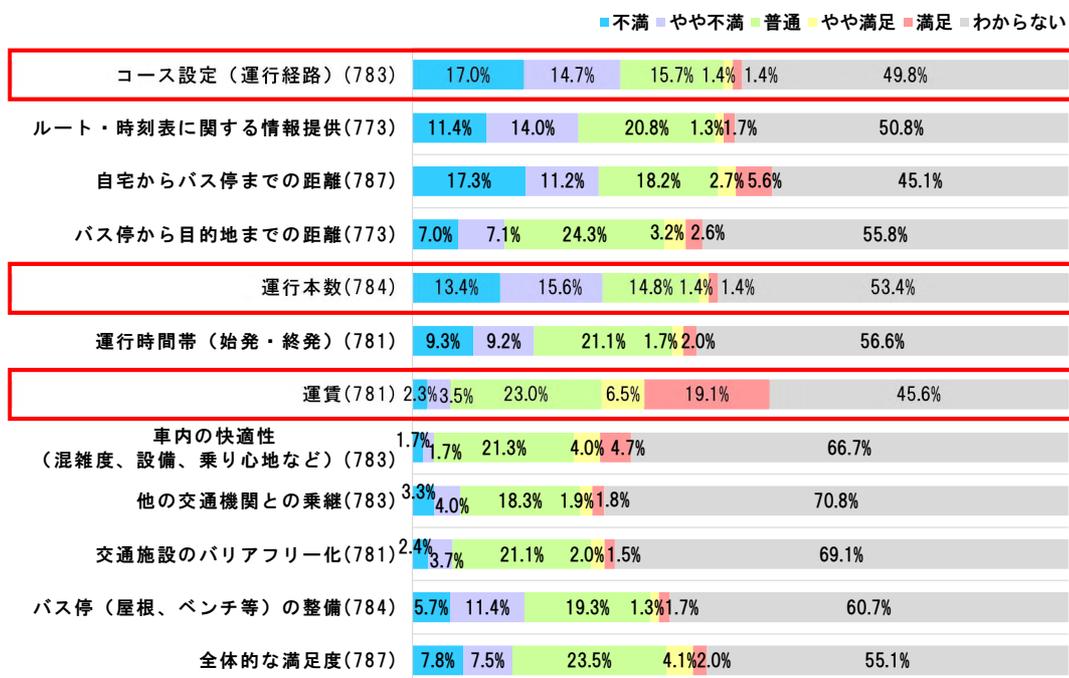
◆利用目的 (N=179・複数回答可)



③市内循環バス：満足度について

満足度では、市内循環バスを「利用したことない」が多数を占めていることから、全項目において「わからない」の割合が高くなっています。その中でも、「運賃」では「やや満足(6.5%) + 満足(19.1%)」と比較的、満足の割合が高くなっています。他方で、「運行本数」、「コース設定(運経路)」でやや不満が高い傾向がうかがえます。

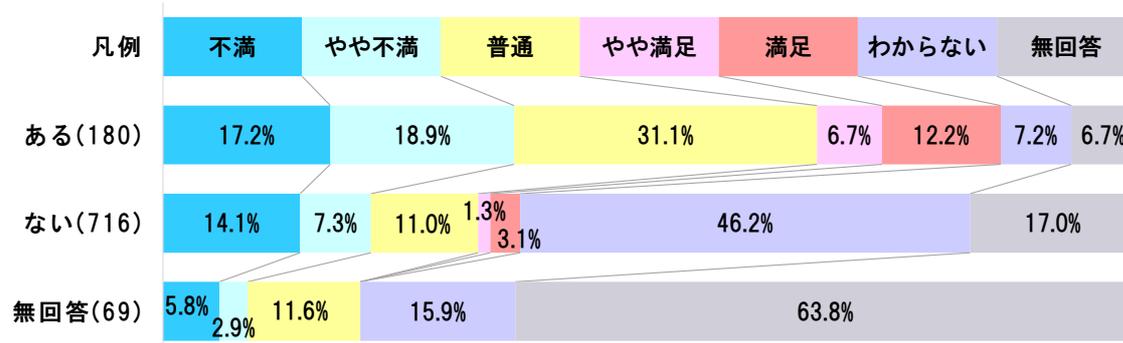
全体的な満足度では、「わからない(55.1%)」が半数以上となっています。



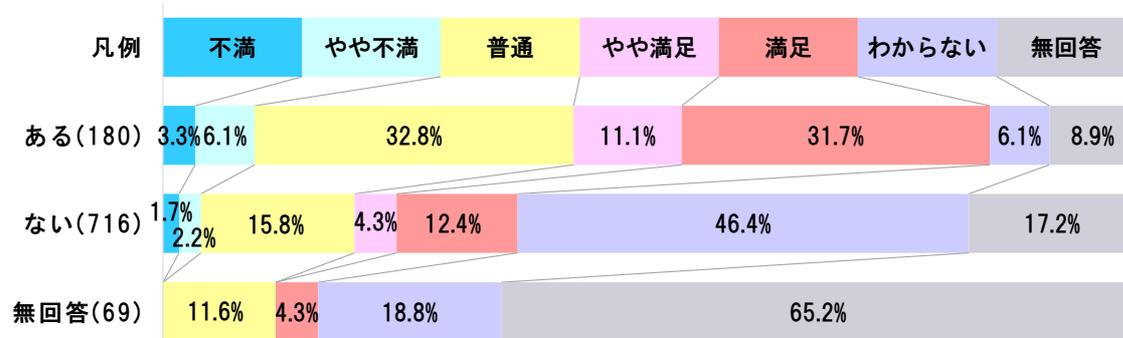
- 利用の有無は「利用したことがない」が7割以上を占めていることから、満足度の回答において「わからない」を選択する割合が高い結果となりました。
- 満足度においては、「運賃」で満足度が高い結果となっており、利用されている方からは一定評価されていることがうかがえます。他方で、「コース設定(運経路)」、「自宅からバス停までの距離」、「運行本数」において不満の評価が目立つ結果となっています。

【参考】公共交通(市内循環バス)の利用回数×満足度(不満や満足が顕著な項目のみ抜粋)

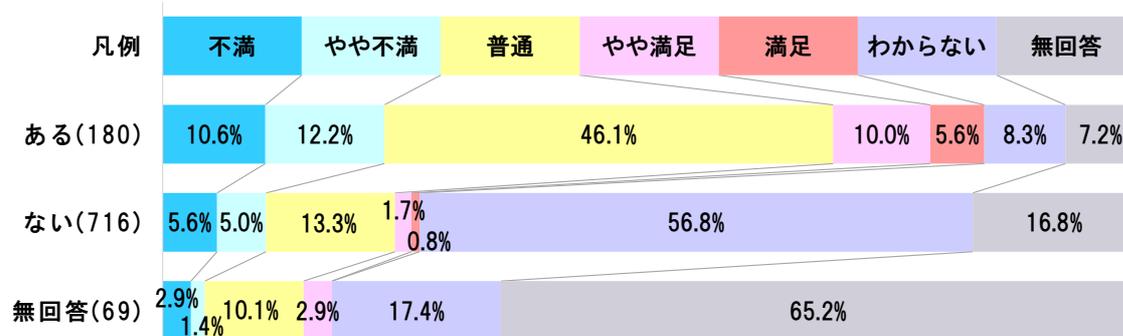
○市内循環バス：3. 自宅からバス停までの距離



○市内循環バス：7. 運賃



○市内循環バス：12. 全体的な満足度

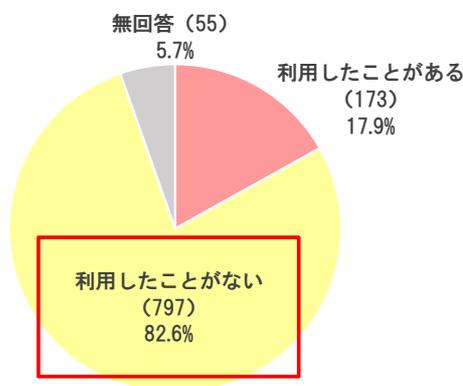


4) デマンドタクシー

デマンドタクシーの利用回数は「利用したことがない(82.6%)」が全体の8割以上を占めています。

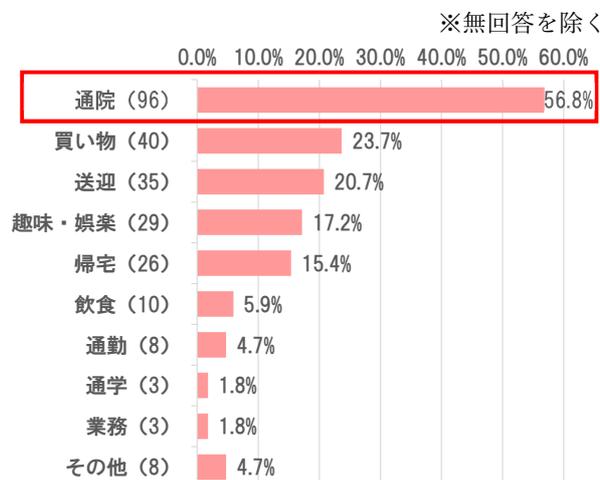
また、利用したことがある方の利用目的は、全体の半数以上の方が「通院(56.8%)」と回答されており、次いで、「買い物(23.7%)」、「送迎(通園・病院等)(20.7%)」の順になっています。

①-1 利用回数 (N=965)



①-2 【「1.利用したことがある」と回答された方】

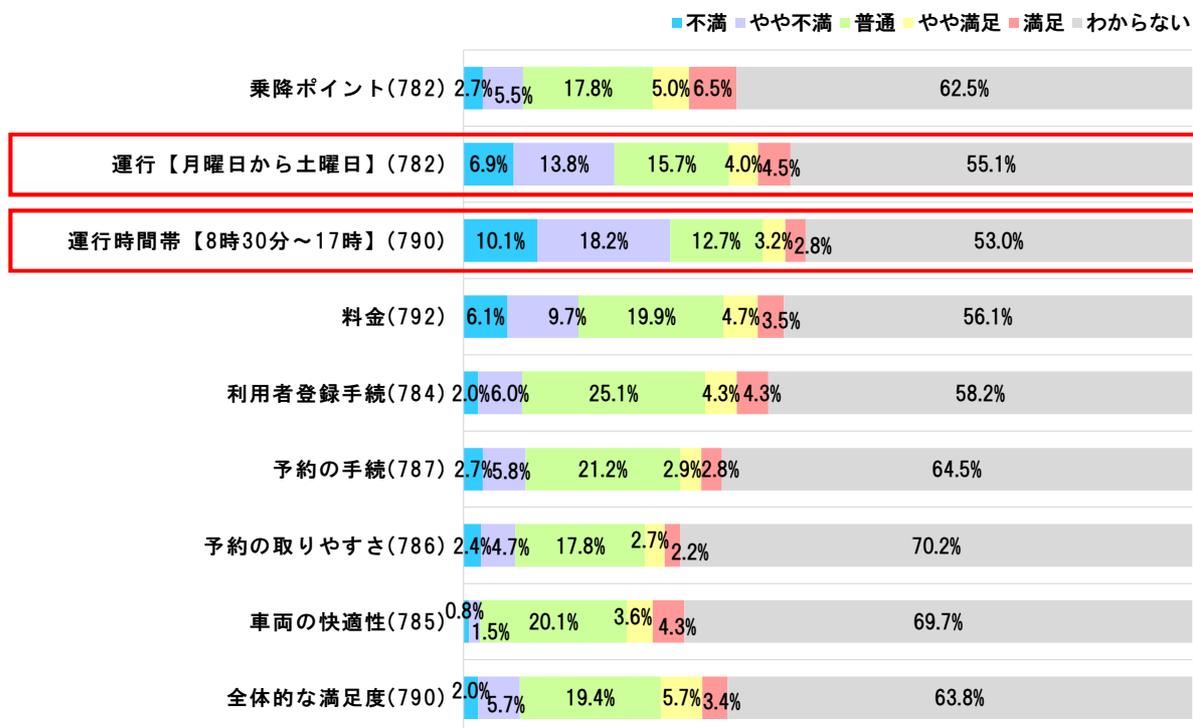
◆利用目的 (N=169・複数回答可)



③デマンドタクシー：満足度について

満足度では、デマンドタクシーを「利用したことない」が多数を占めていることから、全項目において「わからない」の割合が高くなっています。その中でも、「運行時間帯(28.3%)」、「運行曜日(20.7%)」で不満傾向(不満+やや不満)がうかがえます。

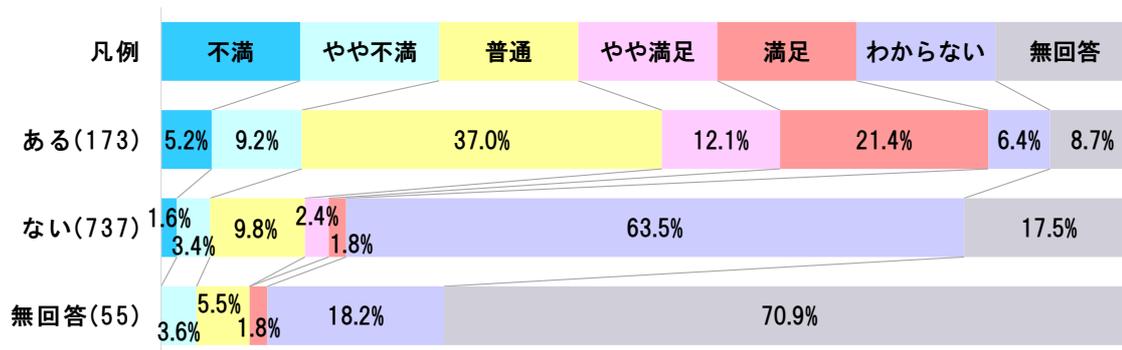
全体的な満足度では、「わからない(63.8%)」が半数以上となっています。



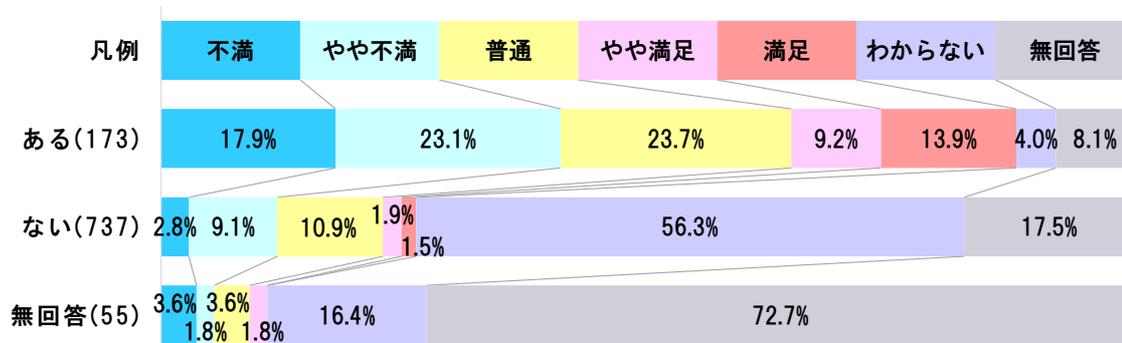
- 利用の有無は「利用したことがない」が8割以上を占めていることから、満足度の回答において「わからない」を選択する割合が高い結果となりました。
- 利用の有無で「利用したことがない」と回答しつつ、満足度で「わからない」以外の回答をされている方が多く見られることから、デマンドタクシーへの関心は高いことがうかがえます。

【参考】公共交通(デマンドタクシー)の利用回数×満足度(不満や満足が顕著な項目のみ抜粋)

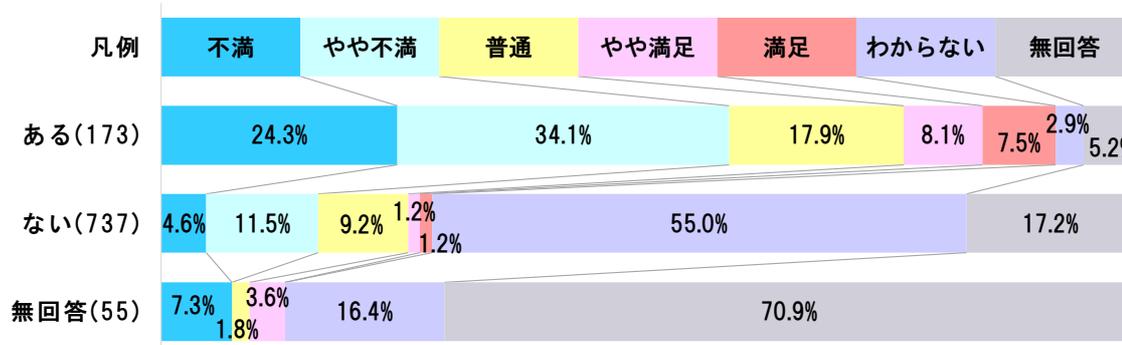
○デマンドタクシー：1. 乗降ポイント



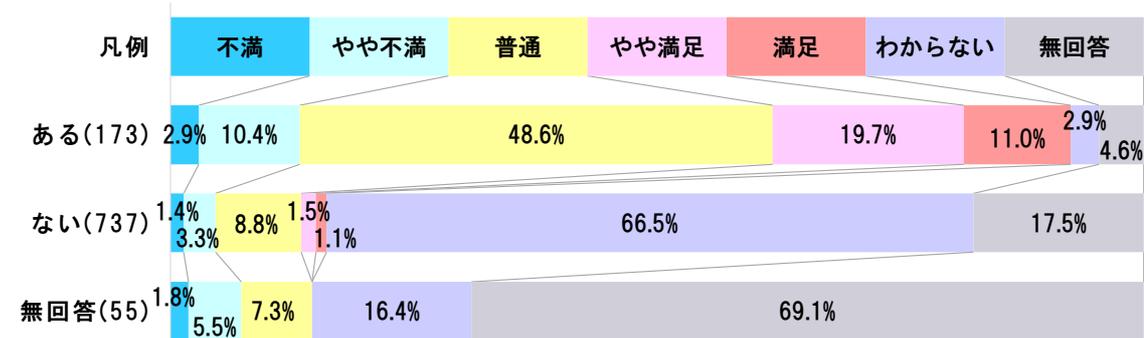
○デマンドタクシー：2. 運行曜日【月曜日から土曜日】



○デマンドタクシー：3. 運行時間帯【8時30分～17時】



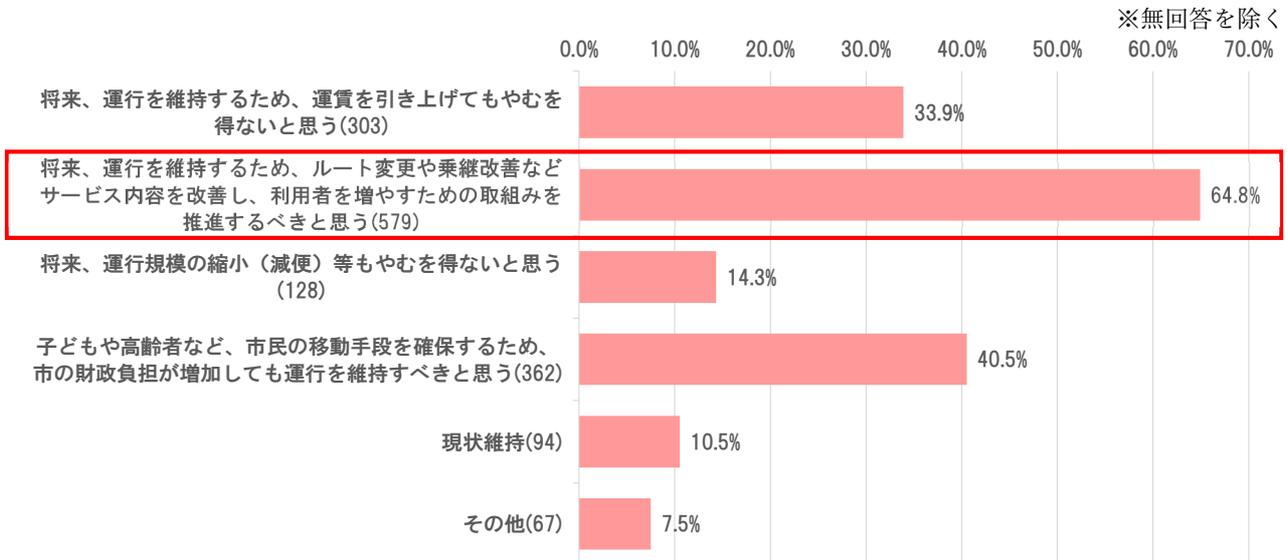
○デマンドタクシー：9. 全体的な満足度



(5)公共交通サービスのための財政負担について

公共交通サービスの財政負担については、「将来、運行を維持するため、ルート変更や乗継改善などサービス内容を改善し、利用者を増やすための取組みを推進するべきと思う(64.8%)」が最も多く、6割以上の方が回答しており、次いで「子どもや高齢者など、市民の移動手段を確保するため、市の財政負担が増加しても運行を維持すべきと思う(40.5%)」を4割の方が、「将来、運行を維持するため、運賃を引き上げてもやむを得ないと思う(33.9%)」が3割以上の方が回答しています。

◆財政負担について (N=893・複数回答可)



- 「将来、運行を維持するため、ルート変更や乗継改善などサービス内容を改善し、利用者を増やすための取組みを推進するべきと思う」が最も多く、6割以上を占めていることから、本アンケートにおける満足度と改善した場合の利用変化の結果等を踏まえたサービス内容の改善・導入などを行うことで、今後、利用者の増加につながると考えられます。
- なお、本設問における「市民」と「利用者」での回答の傾向に違いは見られませんでした。

(6)公共交通や移動に関する意見について

【分類別件数】

路線バス・市内循環バス	バスの運行再編(ルートや便数等)	152
	運行内容等(時間帯、曜日)	51
	運賃等	61
	バスロータリー	4
デマンドタクシー・タクシー	改善要望	93
鉄道	駅施設の改善	23
	運行間隔の改善	4
道路整備	整備要望	14
	渋滞	3
	安全確保(歩行者・自転車等)	20
公共交通全般	周知(時刻表、ルート、乗り方等)	33
	税金投入について	23
	公共交通利用に関して	15
交通施策	自家用車利用に関して	65
	交通施策や市への要望	50
	公共交通サービスの維持	44
	交通施策の提案	26
その他	交通マナー	12
	健康	7
	アンケートについて	21

公共交通や移動に関して、413名の方から様々なご意見をいただきました。

内容としては、路線バスに関しては運行再編に係る要望等が、市内循環バスやデマンドタクシーに関しては利用機会が少ないことから情報提供等に関するニーズが多数うかがえました。

また、公共交通サービスの維持に向けた具体的な施策や取組みのご提案とともに、財政負担等も含めた市への要望などが挙げられていました。

※別冊「自由意見集」参照

3. 課題の抽出

本アンケート調査結果から把握した、東松山市の公共交通等に関する課題を、以下にとりまとめます。

1. 高い自動車依存度と免許返納者への対応

主な移動手段における自家用車比率が高く、また運転免許・自家用車の保有状況及び運転回数からも、日常における移動は自家用車の利用が多く、高い自動車依存がうかがえます。

他方で、将来の運転免許証の返納意向は高いことが把握できました。しかしながら、将来の移動に対する不安としては「身体的・精神的な事由などにより、運転できなくなることへの不安」が半数以上を占めており、運転免許証返納後におけるニーズに即した移動手段の確保・整備が必要と言えます。

課題

現在は自家用車を主要な移動手段とされている方が大半で、公共交通を利用されていない方が多数であるため、運行内容の認知度や利用率を高めることが課題と言えます。
併せて、将来に向けた持続可能な公共交通サービスの確保が必要となっています。

2. 路線バス、鉄道の利用環境の向上

路線バスでは運行ルートの再編や便数の増加や鉄道では駐輪場や駐車場の整備といった公共交通の利用に向けた環境の整備が求められています。

また、路線バス及び鉄道の利用に共通して改善が求められている項目としては、「バスと鉄道との乗継改善」を挙げた方（「必要だと思う」＋「やや必要だと思う」）が多く、改善した場合の利用回数の変化では、「改善した場合、利用回数が増加する」との意向を約6割の方で把握できました。

課題

運行ダイヤ、本数・便数、運行ルート等の見直しや「鉄道～バス～タクシー」間の乗継ぎの利便性の向上が求められています。

3. デマンドタクシー、市内循環バスの認知度及び利用率の低さ

「デマンドタクシーを利用したことがある」は約2割に留まっており、認知度の低さがうかがえました。また、自由意見においても「デマンドタクシーの運行自体を知らなかった」という回答が多くみられました。また、市内循環バスの利用回数も「利用したことがない」が約8割を占め、デマンドタクシー同様、認知度及び利用率の低さが問題となっています。

課題

公共交通の利用促進、利用機会の創出が課題となっています。

4. コロナ禍からの変化に応じた運行内容の提供

コロナ禍前後における外出頻度の変化に関する回答から、以前の水準に戻りつつあることが把握できましたが、在宅勤務の定着等により、一定数(会社員、大学生)はコロナ禍前の水準に戻らないことが予想されます。

課題

新しい生活様式に対応した公共交通サービスの提供に係る検討が必要と言えます。さらに、自動車や徒歩・自転車・バイクといった他の移動手段との連携による新たな移動手段の確保や移動環境の快適化を図ることが求められています。